

# コミュニケーション活動型授業に 関する考察

—— 日本語 5B・6B における実践から ——

田中奈央・金東奎・須賀和香子  
高木美嘉・田中美樹・蒲谷宏

キーワード

総合活動型・コミュニケーション能力・コミュニケーション活動  
「やりとり」・「ふりかえり」

## 1. はじめに

早稲田大学日本語研究教育センター別科日本語専修課程では、2004年度より、週5日・月曜日から金曜日まで毎日行われるコースとして、特定の教科書を使用しない総合活動型のクラス（Bタイプクラス）が新しく設置された<sup>1)</sup>。本稿は、中級後期～上級前期レベルのBタイプクラス（日本語5B・6B）における「コミュニケーション活動型授業」の実践を取り上げ、その実践の軸となる、「やりとり」と「ふりかえり」の活動が、学習者の「コミュニケーション能力」の育成にどのように影響したかについて、2名の学習者の活動過程を具体例に分析・考察するものである<sup>2)</sup>。

---

1) Aタイプクラスは、教科書を用いて授業を行う総合クラスである。レベル5, 6の学習者は、AタイプかBタイプの5コマを選択し、ほかに技能別クラス等の8コマを選択する。

## 2. 「コミュニケーション活動型授業」とは

### 2-1 「コミュニケーション能力」とは

日本語 5B・6B では、「いつ」「どこで」「だれが」「だれに」という前提の下、「きもち」—「なかみ」—「かたち」の三者が相互に関連しつつコミュニケーションは行われている、つまり、コミュニケーションとは、ある「場面」（「人間関係」と「場」）において、ある「表現意図」を持って、（それを実現するための）「表現内容」を、（それを表すのにふさわしい）「表現形式」によって表現すること、ある「場面」において、表現された「表現形式」から、その「内容」、（相手の）「意図」を理解することであると<sup>3)</sup>、その上で、「コミュニケーション能力」を、「話す・聞く・書く・読むという行為を通じて、自己と他者が関わりを持ち、お互いの感情・意思・知識・情報等を交換し、理解し合うという能力」であると捉えている。また、そのように「自己と他者が関わりを持ち、お互いの意思・感情などを交換し、理解し合う」ためには、それぞれが「伝えたいこと」を表現し、それに対する他者からの反応をきちんと「受け止め」、そういった他者との「やりとり」をきっかけに「自分」（「伝えたいこと」やそれを表す「かたち」等）を振り返り、そして、その「ふりかえり」を踏まえてさらに他者と「やりとり」を続けていくという流れが不可欠であると考え、それらに基づいた授業設計・運営を行っている。

---

2) このBタイプクラスが設置されるにあたり、2004年1月に、日本語 5B・6B の担当講師、金東奎（6リーダー）・高木美嘉（5リーダー）・賀須和香子・田中奈央・田中美樹、コーディネーター蒲谷宏により「Bプロジェクト」を立ち上げ、Bタイプクラス理念、クラス運営に関わる諸実践についての検討を進めてきた。2005年度から、βクラスと名称が変更されることになり、担当の形態も若干変わったが、プロジェクトとしては、3期目の実践と位置づけ、検討を継続している。なお、2004年度の春・秋学期には、TA（ティーチングアシスタント）である、李承禧・宇都宮陽子・栗原玲子・施信余・蔡嵐柱・福島恵美子・吉川香緒子・頼美麗の諸氏が、共同担当者としての役割を担い参画している。

3) 蒲谷（2003）参照

## 2-2 「コミュニケーション活動型授業」で目指していること

日本語 5B・6Bで行っている「コミュニケーション活動型授業」とは、授業に関わるすべての人（学習者および担当講師・TA）が「コミュニケーション主体」として活動に参加、実際にコミュニケーションを行っていくことを通じて、学習者の日本語による「コミュニケーション能力」を総合的に高めることを目指す授業である。

この授業では、クラス内で行われるコミュニケーション活動の中心を、「表現」「理解」という「やりとり」とその「くりかえし」に置いている。2-1で述べたように、「自己と他者が関わりを持ち、お互いの意思・感情などを交換し、理解し合う」ためには、そうした「やりとり」と「くりかえし」が不可欠だと考えたからである。「表現」「理解」という「やりとり」には、①学習者が「自分」の伝えたいことを「相手」に理解してもらうためのものと、②「相手」が伝えたいことを「自分」が理解するためのものがあるが、それぞれについて学習者は「相手」からの反応を受け止め、それをきっかけに、「自分」（「伝えたいこと」やそれを表す「かたち」等）を振り返り、それを次の「やりとり」につなげていくという構造になっている。そして、その「くりかえし」の中で、①「自分が伝えたいことを相手に理解してもらうこと」と②「相手が伝えたいことを自分が理解すること」が相互に関連・影響し合い、その結果、それぞれの「伝えたいこと」がより深まり、それと同時にその「伝えたいこと」を表す「かたち」もより明確なものになっていくのだと考えられる。その過程を経ることで「コミュニケーション能力」が総合的に高められていく、そういった成果が得られることをこのクラスの目的としている。

## 3. 日本語 5B・6B クラス

日本語 5B・6B では、このような理念のもと、〈学習者それぞれが「自分の考え」をクラスメートや担当講師・TAという「相手」に説得力を持ってわかりやすく伝え合うこと〉を具体的な目標とした「コミュニケー

ション活動」を行ってきた。本稿でとりあげる2004年度秋学期の授業は、2004年9月27日～2005年1月28日の15週にわたって実施されたものである。学習者数は5Bクラス8名、6Bクラス6名、学習者の情報は以下の表のとおりである。

表1 2004年度秋学期 5B・6B 履修者

	性別	母語
5B (8名)	男性1名 女性7名	韓国語1名 中国語4名(台湾1・NZ1・香港2) ドイツ語1名(オーストリア) フランス語1名 ベトナム語1名
6B (6名)	男性1名 女性5名	韓国語3名 タイ語2名 中国語1名

授業は、月曜日から金曜日まで週5コマ(1コマ90分)行われ、5名の担当講師が各曜日を担当、毎時間TAが参加した。TAの役割は、話し合いの内容を記録すること<sup>4)</sup>、また、グループ活動の際の話し合いをサポートすることである。担当者が5名ということもあり、授業引継ぎは、TAによる話し合い記録を添付した上で、授業内容(大まかな流れ)や連絡事項に留まらず、学習者からどのような要望・質問があったか(担当者の対応含む)、担当者が授業において気づいた点や次回話し合いへの課題と思われることなど、かなり綿密に記述し、各担当者が自分の担当日以外の授業や学習者の様子をできるだけしっかり把握するよう努めた。なお、授業期間全15週のうち、初めの3週を「モデル活動」に充て、学習者にこのクラスの活動を体験・理解してもらう機会を作った上で、残り12週を使い、各自1つのテーマについて活動した。

5B・6Bの「コミュニケーション活動」の特徴は次の2点である。ま

4) 授業において、参加者間にどのような「やりとり」があったのかわかるように、話し合いの流れに沿って、誰がどのような発言をし、それに対して、他の参加者からどのような発言があったのかということ、その場で書き留めたものを授業記録とした。

ず、クラス内の他者との「表現」「理解」の「やりとり」と、それをきっかけに「自分」のこと（「自分の考え」や「伝えたいこと」など）を見つめ直す「ふりかえり」が、すべての過程において「くりかえし」行われる点が挙げられる。さらに、授業全体を大きく6つのステップに分けているという点が、もう一つの重要な特徴である。以下、それらについて詳しく説明していきたい。

### 3-1 「コミュニケーション活動」の6つのステップとその流れ

「モデル活動」後、授業全体を以下の表のように6つに分けた。これは、「今、何のためにこの活動を行っているのか」「今、行っていることが、次のステップにどのようにつながっていくのか」など、各ステップの目的とその関係を明確に提示し、学習者の積極的な参加を促すためである。2004年度春学期は、この点が曖昧であったため、「自分の考え」を深めていく以前に、出発点となる「自分の考え/立場」がはっきりしないまま、漠然と話し合いをしてしまった感があった。そのため、最終的に「自分の考え」を伝えるというより、クラス内の他者のさまざまな考えに流され、それらをまとめたものを表現することになった学習者が見られた。その反省を踏まえ、秋学期では、話し合いをく「自分の考え」を明確にするためのもの（第1段階）とく「自分の考え」をもとに他者と意見交換を行

表2 日本語5B・6Bにおける6つのステップ

ステップ	目的
1. テーマ設定	テーマを決める
2. 第1段階	「自分の考え」を捉える
3. 第2段階	他者と意見交換を行う
4. 第3段階	「自分の考え」を見つめ直す
5. 第4段階	「自分の考え」を最終的に提示する
6. 第5段階	すべての活動とその過程を振り返り味わう レポート集を作成する

うためのもの（第2段階）の2つに分けた上で、全体として6つのステップを設定、学習者にも各ステップとその目的を明確に提示することとした。

### 3-1-1 テーマ設定

活動の出発点となるこのステップで、学習者はそれぞれ「自分の考え」を1, 2行で書き、それを各自のテーマとして設定する。各自のテーマを1語ではなく1, 2行で記述するのは、「スポーツ」「愛」のような1語をもってテーマとすると、それらについての情報に関する点に走ってしまいがちだと考え、「スポーツがどうなのか」「愛が何なのか」という文レベルで、各自が自分に引きつけたテーマ設定を行うことを心掛けたためである。図1は、このステップにおける学習者Aの状態を表したものだが、Aを囲む円が点線で表されているように、この段階では学習者Aの考え／伝えたいことはまだはっきりしていないと思われる。

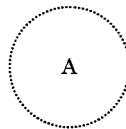


図1

### 3-1-2 第1段階

「第1段階」では、「自分の考え」を固めていくため、クラス単位で話し合いを行う。図2のように、ここでは、「テーマ設定」で提示した「自分の考え」について、クラス内の他者（クラスメートや担当講師・TA）から質問・コメントをもらい、それに答えていくことで、漠然としていた「自分の考え」を捉えていくことを目標としている。また、「第1段階」終了時には、学習者が「自分の考え」を整理できるよう、それぞれ「今、考えていること」を1200字程度のレポートにまとめる活動を行う。

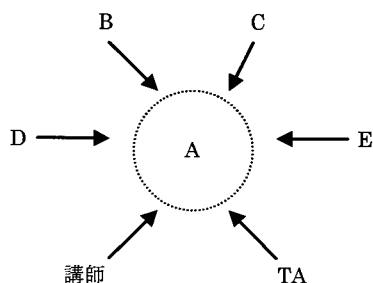


図 2<sup>5)</sup>

なお、このステップにおけるクラス内の他者の役割は、「自分の考え」を明確にしていくという学習者Aの活動を支援することである。そのため、特に「なぜそのことを他の人に伝えたいと思ったのか」「なぜそのように考えるのか（具体的なエピソードや根拠など）」といったことを引き出していくことが重要であり、Aの提示した考えに対して、説明が足りないと思われる点・疑問に思ったことなどについて、質問や感想を投げ掛けていくことになる。Aの考えていることに対して、他の人が自分の考えていることをぶつけていく（異なる意見を述べる・反論する等）のは「第2段階」以降の活動と位置づけている。

### 3-1-3 第2段階

「第2段階」では、「自分の考え」をもとに他者と意見交換を行うため、少人数で話し合いを行う。図3は、「第2段階」において、学習者Aが自分のテーマについてクラスメートB・Cと「やりとり」をしている様子を表したものである。このように、ここでは、「第1段階」で捉えた「自分の考え」を改めてクラス内の他者に提示し、それに対する意見を自分から積極的に求め、お互いの考えをじっくりと「やりとり」していくこ

5) 漠然としていた（図では点線で表示）学習者Aの「考えていること」が、次第に明確に（実線）になっていく、という過程を想定している。

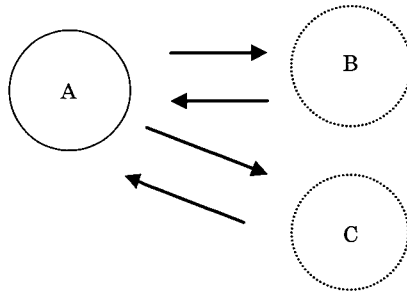


図3<sup>6)</sup>

とを目指している。

なお、この段階における他者の役割は、学習者Aの考えに対して自分が考えていることをぶつけていく（異なる意見を述べる・反論する等）、あるいはAの考えていることに疑問を投げ掛けていくことである。その際、他者BやCは、ただ異なる意見を述べたり、反論したりするだけではなく、その根拠を示すことも逆にAから求められるため、Aの考えていることと対峙していくうちに、必然的にAのテーマについて真剣に考えていくことになるだろうと思われる。

### 3-1-4 第3段階

「第3段階」は、「第2段階」と並行して行われる。ただし、授業中に行うのではなく、次回の話し合いまでに各自の課題として行う、「ふりかえり」に強く焦点を絞った活動である。図4のように、ここでは、「第2段階」における他者との「やりとり」をきっかけに、「自分の考え」と、他の人の考えを比べたり、照らし合わせたりすることによって、自分とは異なる考え方や視点に気付き、それにより「私」が考えていること」を

6) 図3において、学習者Aが「第1段階」を経て「自分の考え」をはっきりと捉えられている（図では実線で表示）のに対し、他者であるB・Cの考えはAほど明確ではないと思われるため、BやCを囲む円は点線で示されている。



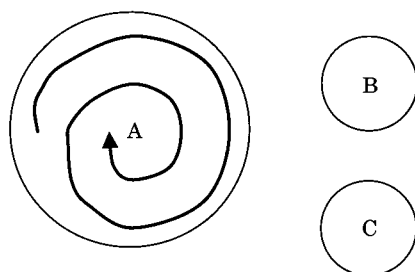


図4<sup>7)</sup>

“見つめ直す”ということを目指としている。「なぜ“私”は～と考え、他の人は～と考えるのだろうか」「なぜ“私”は～と考えないのだろうか」「“私”が自分にとって当たり前だと思っている～という考えは、本当にそうなのだろうか」など、「自分」の視点や考えに疑問を投げ掛け、学習者それぞれが自分で考えていくことが求められる。

### 3-1-5 第4段階

ここで、学習者は、それまでの活動を経て深まった「自分の考え」を、その時点での集大成として、「口頭発表」「レポート」という形で他者に伝える活動を行い、図5のように「自分の考え」を最終的に提示する。ポイントとなるのは、「それを初めて聞く人／読む人でもわかるように表現されているか」ということである。また、その際、ただ提示し、そのままにするのではなく、「口頭発表会の振り返り」「レポート検討」という場を設け、〈自分は「考えていること」を他の人に分かりやすく伝えられたのか〉、〈他の人はどう考えたのか／感じたのか〉ということに目を向けさせることで、自分の考えやその提示のしかたを各自が“見つめ直す”機会と

7) 図4で、学習者Aの円に描かれている螺旋の矢印は、学習者Aが、「第2段階」で「やりとり」をした他者B・Cの考えを受け止め、理解した上で、自分の考えについて「ふりかえり」、深めていく過程を表している。

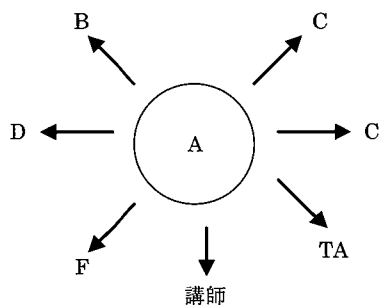


図 5

して活用できるようにしている。

### 3-1-6 第5段階

「第5段階」は、それまでの活動を通してそれぞれの「考え」がどのように深まったのか、その過程を1人1人が辿り、それをクラスで確認・共有するステップである。学習者各自が「自分の今の考えは、この活動における他者とのコミュニケーションを通して育ってきたのだ／深まったのだ」と実感できる場になることを想定している。また、各自の成果が目に見える形で味わえるように、学習者が中心となってレポート集の作成を行うという活動を取り入れている。

### 3-1-7 評価

日本語 5B・6B では、「口頭発表すること」「レポートを書くこと」だけを目指しているのではなく、すべての過程において「自分自身でよく考えること」「他者の意見をよく聞くこと」「皆で話し合うこと／活動すること」「他者にわかるように自分の考えを伝えていくこと」などをより重要な目的と考えている。そのため、評価も、「口頭発表」「レポート」についてだけでなく、その過程における様々な活動に対して行うこととした。

具体的には、「クラスメートによる評価」「自己評価」「担当者による評

価」の3種により評価を行う。「クラスメートによる評価」は、「口頭発表」「レポート」への「コメントシート」によるもの、「自己評価」は「口頭発表」「レポート」について点数（5点満点）とコメントで評価をするものである。「担当者による評価」は、「1. 授業参加」「2. 自分の課題への取り組み方（各ステップについて、それぞれの目標が達成されたかどうか）」「3. クラスメートの課題への取り組み方」という項目について点数（5点満点）とコメントで行うこととした。5名の担当者がそれぞれ、各学習者について評価を行い、それらと学習者の「自己評価」を照らし合わせながら、協議の上、点数・コメントを決定した<sup>8)</sup>。また、その結果は「評価表」にまとめ、最終日、学習者に手渡した<sup>9)</sup>。

### 3-2 「やりとり」と「ふりかえり」を促すために

授業全体を6つのステップに分けることに加え、このクラスのもう1つの特徴である、「表現」「理解」の「やりとり」とその「ふりかえり」が「くりかえし」行われるように、以下の2種のシートを作成し、活動に応じて学習者に配布、各自の活動の過程およびクラスメートからの反応を学習者自身が記録していくという仕組みを作った。学習者にとって、「やりとり」をきっかけに「自分」の考えを「振り返る」ということは、今の「自分の考え」を把握し、次へつなげるために重要な作業だと考えたからである。なお、学習者には学期の始めに1人1部ずつファイルを配布し、各自が表現したもの（レジュメやレポートなど）はもちろん、これらのシー

---

8) 「自己評価」と「担当者評価」の間で評価に大きな差は見られなかったが、少しでも差がある場合には、なぜその点数なのかが納得できるように、コメント欄で特にその点について丁寧に説明し、さらに、評価に疑問を持った学習者が相談に来られるような体制をとった。

9) なお、大学に提出する最終的な成績は、「担当者による評価」80%・出席率20%の配分で決定した。この「担当者による評価」とは、学習者に手渡した「評価表（「自己評価」と照らし合わせ、担当者協議により決定したもの）」の点数を合計し、換算したものである。

トも順次挟んでいき、自分の活動記録を保存していくよう指示している。

### 3-2-1 「報告シート」

「第1段階」および「第2段階」において、各自がその日の話し合いを振り返ることができるように、主に「自分が話したこと」「それに対して他の人から寄せられた質問やコメント」を中心に強く印象に残ったことを、以下のような「報告シート」に記入することとした。「自分のテーマについての話し合い用シート」には、「ふりかえり」を促すため、特に「次の話し合いまでの課題」という項目が設定してある。

#### 第1段階

##### 1) 他の人のテーマについての話し合い用 (A 4判半枚)

5B / 6B 2004年 月 日 ( 曜日) 名前:	
グループのメンバーの名前	
テーマ	_____さんの「 _____ 」について
あなたはどんな質問をしましたか /どんな意見を言いましたか (+あなたの質問や意見について 他の人は何と言いましたか)	
その他:印象に残った他の人の質問 や意見, 語彙や表現などがあつたら、 書いておきましょう	

##### 2) 自分のテーマについての話し合い用 (A 4判1枚)

5B / 6B 2004年 月 日 ( 曜日) 名前:	
グループのメンバーの名前	
テーマ	私のテーマ「 _____ 」について
他の人からの質問やコメント (+ あなたはどうか答えましたか)	
次の話し合いまでの課題:それま でに考えておきたいこと・問題点 など	
その他:印象に残った語彙や表現 などがあつたら、書いておきま しょう	

**第2段階**：自分のテーマの話し合いについて（A4判1枚）

5B / 6B 2004年 月 日 ( 曜日) 名前：	
グループのメンバーの名前	
テーマ	私のテーマ「 _____ 」について
あなたのテーマや考えに対して、他の人はどのような考えを持っていましたか。どのような質問、意見がありましたか。（+あなたはそれに対してどう思いましたか）	
次の話し合いまでの課題（それまでに考えておきたいこと・問題点など）	
その他：印象に残った語彙や表現などがあったら、書いておきましょう	

3-2-2 「コメントシート」

「第4段階」においては、「口頭発表会」「レポート」それぞれにつき、「コメントシート（A4判1枚）」を使用した。学習者は、このシートに基づき、クラスメートの発表やレポートに対し、「相手の伝えたことを自分はどう理解したか」「どこがわかりにくかったか」「相手の伝えたことについて自分はどう考えたか」「その他、印象に残ったり、面白いと思ったこと」という項目について自由に記入を行う。シートは、記入後、発表者／執筆者本人に手渡し、これらをもとに「自分の伝えたこと」やその伝え方について振り返ることができるようにしてある。

4. 「コミュニケーション活動型授業」の分析

本稿では、3章で述べてきた日本語5B・6Bの「コミュニケーション活動型授業」に関し、「やりとり」と「ふりかえり」を軸にした活動が、「コミュニケーション能力」の育成にどのように影響したかという点について、学習者の活動過程を縦断的に分析、考察した。分析の対象としたのは、学習者が「自分の考え」をまとめた形で提示したもの（「1, 2行作

文]「第1段階まとめレポート」「口頭発表レジュメ」「レポート」の4種)、また、「自分の考え」に対する他者の反応が記録されているもの(各自が記入した「報告シート」「コメントシート」の2種)である。ここでは、5B・6Bの学習者のうち、活動過程に「やりとり」「ふりかえり」という特徴が顕著に見られた2名の学習者G(5Bクラス)とS(6Bクラス)を取り上げた。以下、「テーマ設定」から「第5段階」に至るまでの過程を、この2名の学習者の具体例を挙げながら、見ていきたい<sup>10)</sup>。

#### 4-1 テーマ設定(第1週)

2004年度秋学期は、学習者の「伝えたい」「理解したい」という動機を刺激するため、「わかってほしい、私のこと」という大きなテーマをクラスとして設定した。その上で、何について語れば、「私」のことを他者(クラスメート・担当者)に理解してもらえるだろうかということを考えながら、「今、“私”が考えていること」を1,2行で書かせ、それを各自のテーマとした。

学習者Gは「私の外国人友達についての考え」(\*原文まま)ということだけしか述べておらず、具体的な内容はこの時点ではわからなかった。一方、学習者Sは、トマス・ハーディの『テス』を取り上げ、その小説が好きな理由と自分の性格の関係を示唆する、次のような文章を作成した。

学習者S「1,2行作文」

\*原文まま

この小説の特有の「悲情と宿命観」に心を奪われていた。楽しい物語より悲しいの方をもっと現実に近いと考えて、自分が現実を離れたくなく、悲劇的な人だと思う。一方、完璧主義にわけが分からず夢中になり、「自分の殻」に閉じ籠っているとされたことがある。完璧を求めるうちに思わずに現実と離れてきた。この二つの矛盾していることは、自分の性格の中の内面的な苦痛と言えるかと考えている。

- 10) 各ステップの目的とそこで見られた学習者の変化や考えの流れ、また、その具体例として、本稿で取りあげた学習者G・Sの活動過程をまとめたものが、文末の添付資料である。本稿第4章は、この表の流れに沿って述べられている。

#### 4-2 第1段階（第2～4週）

クラス単位（5B：8名／6B：6名）で、原則として1コマ（90分）につき2名ずつ話し合いを行った。ここでは、「自分の考え」に対する他者の反応を知り、自分が思ったとおりに他者に伝わっていないことを実感、伝わっていない部分について説明を行ったり、「自分の考え」を見つめ直したりするといった学習者の様子が観察された。

学習者Gの場合だが、Gは「外国人の友達」についての考えを述べる際、「私はベトナム人である」「〇〇さんは～人である」ということを強調していた。そのく私は「内」あなたは「外」という言い方により、クラスメートは、くGは「外」のものを「除外するもの・受け入れられないもの」だと考えているのだと捉えたようである。Gは、クラスメートにそのように誤解されたことに気づき、その誤解を解こうと模索を始めた。その様子が、以下の「報告シート」の例（特に下線部分）から具体的に窺える。

学習者G「報告シート（11/2，11月2日の意。以下同様）」より

\*原文まま 下線は筆者

「私の話でいつもベトナム人だと言ったら、少しとも区別、差別があったようで、他の人に私が外国人との差別があると思われてしまった。→本当に困っています。どういふうに説明すればいいかもっと考えたいと思う（ベトナム人だという考え方が絶対に差別するためではない）」

なお、この話し合いのあと、「第1段階」の活動の中で、Gは「私はベトナム人である」と自分が考えていることの原因を探り、背景となるベトナムの共産主義やその教育についてクラスメートとやりとりをしていくことで、実際に誤解を解き、皆からの理解を得ることに成功した。そして、以下のように、「第1段階まとめレポート」の中で、なぜ誤解をうけたのかということについて触れ、「私はベトナム人である、自分の国のために何か役に立ちたい」という考え方は、自分が育ってきた環境（発展途上国・共産主義下のベトナム）に影響されているということを説明している。

学習者G「第1段階まとめレポート」より

\*原文まま

「共産党の下で導くベトナムで生まれて、自国の教育を受けた私のはずだ。まだいろいろな問題に頭を出す国の状態を見て、いつでも自分の力を貢献する意欲が促された。どこの国の人でも私と同じような考えがある、これが当然だと思った。」(2段落)

また、学習者Sの場合は、初めに提示した考え(4-1の「1, 2行作文」を参照)に抽象的な部分が多かったため、特にその部分についてクラスメートからの質問が集中した。例えば、「運命は何によって決められると考えているのか」「なぜ悲しい運命観を持っているのか」といった質問を受け、「性格によって運命が決まってしまう」ということについて自分の体験談を語る(11/10の話し合い)など、少しずつ具体的な説明を行うようになっていった。「1, 2行作文」では「宿命観」「悲観的」といった抽象的な語のみで「自分の考え」が表されていたが、「第1段階まとめレポート」では、以下のように、自分は「運命」をどのように捉えているかということを説明した上で、「悲劇」とはどのようなものかということ述べるといった変化が見られた。

学習者S「第1段階まとめレポート」より

\*原文まま

「私の人生に対する理解では、人間の運命は誰かに(例えば神様とか)決められることではなく、自分の性格に決められるということである。しかも、人間の性格は、基本的には変えにくく、したがって、性格に決められる運命はある程度決まっていると言える。人性の中の「暗い面」と「弱い面」等の弱点のため、運命に逆らうことをするのは悲劇の根源にあると思っている。」(2段落)

#### 4-3 第2・3段階(第5~8週)

「第2段階」の話し合いは、3, 4名のグループで、原則として1コマ(90分)につき1名ずつ話し合いを行った。ここでは、他者との話し合いの中で、共有点を探したり、他者の考えに影響を受けたりしながら、「自分の考え」に目を向け、それを自分自身で把握しようとする様子が観察さ



れた。

学習者Gの場合だが、Gは「第1段階」で話し合っていくうちに、以下のような「問題」を抱えることとなった。

学習者G「第1段階まとめレポート」より \*原文まま ( )は筆者注  
「これまで自分の概念が正しいと思った私はこのこと（「自分はベトナム人だ」と主張したことに対するクラスメートの否定的な反応や誤解）を知って傷つけられたような気がしたが、よく考えてみたら、自分の思想を変えるべきかどうか悩んでいる」（2段落）

そこで、「第2段階」で、Gは、クラスメートに「自分の観念や思想を変える必要があるかどうか」（報告シート11/18）という問いかけをし、クラスメートとの「やりとり」の中で、この問題を解決しようと試みている。また、一方では、あるクラスメートが「旅行」というテーマから「友情」について話し合いを発展させていったこと、そしてその話し合いに参加したことに刺激を受け、自分も「外国人の」という枠を外した「友情」というクラスメートと共有できる話題を取り上げ、「友情はどんな意味があるか」（報告シート12/3）「友情は必要か、大切か」（報告シート12/8）といった質問を投げ掛けていた。さらに、Gの場合、「第3段階」の活動として、「自分の考え」に目を向け、それを把握しようとしていることが、「皆に分かってほしいのはいったい何か？自分の考えを整理したいと思う。」（報告シート11/18）というコメントから窺える。

学習者Sの場合は、「第1段階」で他者から寄せられた質問に関連する、以下のような話題を自分から提供しながら、クラスメートと「悲劇小説」や「悲観的」というキーワードについて、共有点を探そうとしている様子が観察された。

学習者S「報告シート」より \*原文まま 下線は筆者  
・「皆さんはどのような悲劇小説が好きなのか」（11/30）  
・「よく小説を読むのか、どのような小説が好きなのか」（12/1）  
・「読書や本に何を求めているのか」（12/8）  
・「自分が楽観的な人だと思うか、悲観的な人だと思うか」（11/30,12/3）

このような共有点探しの中で、これらの話題に関するクラスメートの考えを聞くことにより、Sは「悲劇小説を読まない人もいる」「小説そのものを読まない人もいる」「ストレス解消や人と付き合う際の話作りのために読書をする人がいる」といったことに気づき、「自分はそうではない／自分はそのように考えていない」ということを改めて認識したのだと思われる。また、同時に、「他者の考え」と異なる「自分の考え」を表現するためには、自分がテーマとしている「悲劇小説」と「自分」の関係を説明しなくてはならないということ考えたのではないだろうか。「第2段階」「第3段階」において、Sが次第に「自分」について、「悲劇小説に惹かれる自分」について、再度目を向け始めるようになっていたことが、以下の報告シートからわかるだろう。

学習者S「報告シート」より

\*原文まま

- ・「今回は『自分のことにきびしい』という性格を深く話したいです」(11/30)
- ・「対人関係に苦手である私にとっては現実の世界の人達がわかりにくいです。なお、小説の世界の人は分かりやすいし、付き合わなくても分かるし、ある程度に安全な存在といえるかもしれません」(12/8)

#### 4-4 第4段階（第9～11週）

##### 4-4-1 「口頭発表会」「レポート」

口頭発表は、各自A4判3～4枚のレジюмеを作成し、1名につき発表15分・質疑応答20分で行った。なお、司会者も学習者が担当した。レポートは、分量を4200～4800字（5B）・5400～6000字（6B）とし、口頭発表の約1週間後を締め切りとした。「第4段階」では、「自分の考え」を再度見つめ直し、より分かりやすく説明するために整理したり、さらに考えを深めたりすること、そしてその考えを他の人に分かりやすいように工夫して伝えるといったことが観察された。

学習者Gは、口頭発表・レポートにおいて、「自分の視点を大切にしながら、相手を受け入れていきたい。そういった姿勢で外国人の友達を作

り、その友情を大切にしていくなために努力したい。」といったことを中心に、以下のような章立てで「自分の考え」をまとめた。おそらく、Gは、今まで話してきたことを整理、「自分の考え」をまとめた上で、章と章のつながりを大切に考えながら、話し合いで実際に投げ掛けた質問を章立てに使うことなどにより、わかりやすい発表やレポートを目指したのではないかと考えられる。また、その際、「自分の考え」に影響を与えたクラスメートやTAの意見を引用したり、「自分の考え」の根拠を支えるものとして、独自に留学生対象にアンケートを行い、その結果を添付したり（口頭発表レジュメ）といった工夫も見られた。

学習者G「レポート：『外国人の友達についての考え』」の章立て \*原文まま

- ①はじめに
- ②私は友達の文化が理解できるか
- ③友情には『縁』というものがあるか
- ④友情はどのような意味があるか
- ⑤私には、外国人の友達と付き合うのはどんな意味があるか
- ⑥外国人の友達は短期的な友達であるか
- ⑦終わりに

学習者Sの場合も、同様に、「第2段階」で自分がクラスメートに問いかけた質問を以下のように章立てに利用し、本文の中で自分が強調したい部分の下線を引く等の工夫が見られた。また、VI章では、「第2・3段階」での課題であった「小説と自分との関係」について考え続けたことが取り上げられている。

学習者S「レポート：『悲劇小説と私』」の章立て

\*原文まま

- 始めに
- I どのような悲劇小説を好きなのか
  - II いつから悲劇小説を好きなのか
  - III なぜ他の小説より、悲劇小説が好きなのか
  - IV 読書や本に何を求めるのか
  - V 悲劇小説から何を味わったか
  - VI 悲劇小説と現実の世界の私
- 終わりに

#### 4-4-2 「口頭発表の振り返り」「レポート検討」

このように、学習者は「口頭発表」「レポート」で最終的に「自分の考え」を提示するが、それに対してクラスメートから寄せられた「コメントシート」により、それぞれ、他者の理解が得られた部分・理解が得られなかった部分はどこなのか、そして、「自分の考え」が他者にどのような影響を与えているかを知ることができたようである。

学習者Gの場合は、「初めは何を言いたいかわからなかったが、Gさんの考え方・気持ちがわかってきた」といったコメントが寄せられ、口頭発表・レポートともに、ほぼ全員の理解を得ることができたようだ。一方、学習者Sの場合は、口頭発表の質疑応答の際、「悲劇小説」と「自分」の関係についてクラスメートからの質問が集中し、その点についての説明が不足していることを認識したと考えられる。そのため、レポートでは、VI章で「悲劇小説」と「自分」の関係についての説明を増やし、より詳しく具体的な説明を心掛けたようだ。また、その際、自分の考えの根拠として、いくつかの「悲劇小説」を援用、例を挙げたり、小説の登場人物と自分を比較対照したりしながら論じるといった工夫も見られた。このことから、「コメントシート」をもとにした「ふりかえり」が有効に働いているということが言えるのではないだろうか。

また、Sのレポートに対しては、クラスメートから「Sさんのレポートを読んでいろいろ考えるようになった。……やはり人生と運命の関係が一番印象深かった。」「悲しいことが嫌いな私は、喜劇で生きていきたいと思います。喜劇、面白いこと、笑い声で心を癒します」「私はいつも私にいい偶然が起きるだろうと思うほうです。そう思うと、本当にいい結果が出る場合もありました。自分の運命を信じるとか、そのようなことをよく考えています」(\*原文まま)といったコメントが寄せられている。このことから、「悲劇小説と私」というテーマで活動を進めていったSと関わりあい、その過程を共有することにより、他者であるクラスメートも、Sのテーマに関係する「人生」「運命」「生き方」などについていろいろと考え

ているということが窺えるだろう。

#### 4-5 第5段階（第12週）

ここでは、それまでのすべての活動を振り返り、感想を述べ合ったりして、その過程をクラス内で共有し、レポート集の作成を行った。その際、学習者Gは、このクラスで印象に残ったこととして、〈（それぞれテーマが違うのに）結局、皆、「人間」ということについて話していたということ〉、〈自分の言いたいことが相手になかなか伝わらなくて、「なんでわかってくれないの?」と悔しかったこと〉を挙げていた。また、学習者Sは、同様に印象に残ったことに関連して、「皆と話し合って、今まで気付かなかったことに気付いた。自分（のテーマ）が中心になって、皆にいろいろ聞かれるという話し合いの仕方が、今までにないものだったので、印象に残っている。どういう質問が来るだろうかと考えながら話すのは、少し恐いこともあったが、面白かった。」という感想を述べていた。また、「相手の話を理解するためには、まずとにかく『聞く』のが大事だ」ということも述べていた。

#### 4-6 分析のまとめ

このように、学習者GとSが「表現したもの」、それぞれに見られる特徴と変化を洗い出し、そのきっかけとなるものを探っていくことにより、この2名の活動過程には共通する大きな流れがあることが見えてきた。以下の表は、それぞれの活動過程をまとめたものである。

学習者Gの活動過程　まとめ
「外国人の友達についての考え」（レポートのタイトル）
クラスメートに誤解されたことに気付く
↓
「自分の考え」の中心的な部分（「私はベトナム人である」）を見つめ直す （「第1段階」）
↓

Gからクラスメートに質問を投げ掛ける



「自分の考え」を見つめ直そうとする（「第2・3段階」）



「自分の考え」を工夫して伝える（「第4段階」）

学習者Sの活動過程 まとめ 「悲劇小説と私」（レポートのタイトル）

クラスメートから詳しい説明を求められる



クラスメートからの質問に対し、具体的に説明を行う（「第1段階」）



Sさんからクラスメートに質問を投げ掛ける



「悲劇小説」に惹かれる「自分」に再度目を向け、「悲劇小説」と「自分」の関係について考える（「第2・3段階」）



「自分の考え」を工夫して伝える（「第4段階」）

2名とも「自分の考え」をクラスで提示してみたところ、クラス内の他者から、自分が予想していなかった「反応」が返ってきている。そのことにより、「伝えたい」「理解してもらいたい」という強い動機が生まれ、「自分」の視点に疑問を投げ掛け、客観的に見つめ直すこと、「相手」が理解できるように伝える工夫をすることを行うようになった。そして、クラスでの「やりとり」によってそれらの試みを「くりかえす」ことで、「自分の考えていること」「自分の考えを伝えること」を様々な視点から検討し、その結果、初めに提示した「考え」が深まっていた、そういった過程が明らかになったと言えるのではないだろうか。

学習者GとSは、このように全体的な流れで見ると、同じような活動過程を辿っているが、「第1段階」の活動についてはかなり異なっていることがわかる。学習者Gは、初めにクラスメートに誤解されたことに気づき、それがきっかけとなって、「自分の考え」の中心的な部分（「私はベトナム人である」）を見つめ直すという過程を辿った。一方、Sの場合は、

初めに提示した考えに抽象的な部分が多かったため、クラスメートから詳しい説明を求められ、それらに対して具体的に説明を行うということが活動の中心となっている。このように、日本語 5B・6B においては、すべての学習者が同じ過程を辿った、あるいは辿らなければならないというのではなく、学習者それぞれの活動過程があるのではないかと考えている。

## 5. 「コミュニケーション活動型授業」の成果

以上の分析・考察の結果、この授業の軸である「やりとり」と「ふりかえり」の活動によって、次のような成果があがったことが確認できた。まず、学習者は、「相手の考え」をきちんと受け止め、それをきっかけに「自分」を見つめ直した上で、「自分の考え」を述べるようになったということ、また、その際、「自分の考え」を、他者が理解できるように工夫して伝えるようになったということである。

2章において、日本語 5B・6B では、「話す・聞く・書く・読むという行為を通じて、自己と他者が関わりを持ち、お互いの感情・意思・知識・情報等を交換し、理解し合うという能力」を育成することを目的として、「表現」「理解」という「やりとり」とその「くりかえし」を軸にした「コミュニケーション活動」を行っているとした。それぞれが「伝えたいこと」を表現し、それに対する他者からの反応を「受け止め」、それをきっかけに「自分」（「伝えたいこと」やそれを表す「かたち」等）を振り返り、そして、その「ふりかえり」をさらに次の「やりとり」につなげていく、そういった流れが、「自己と他者が関わりを持ち、お互いの意思・感情などを交換し、理解し合う」ためには不可欠であると考えたからである。

学習者 G は、その活動過程において、「自分の考え」に対するクラスメートの否定的な反応や誤解をきちんと「受け止め」、それをきっかけに「自分の考え」やその根拠となるものを「見つめ直した」上で、それを相手にわかるように「表現していく」、そのことを繰り返していくことによって、クラスメートの理解を得ていった。また、学習者 S も、自分が投

げ掛けた質問に対するクラスメートの答えを「受け止め」、それらと照らし合わせながら、「自分の考え」を「見詰め直していく」ことにより、「自分の考え」やその伝え方をより明確なわかりやすいものへと練り上げ、そして、やはりそれを再度「表現していく」という活動を行っている。上に述べた成果は、日本語5B・6Bで「コミュニケーション活動」を行っている中で、特に「(相手の反応を)受け止める」「(相手とのやりとりをきっかけに自分を)振り返る」「(受け止め、振り返った上でさらに)自分の伝えたいことを表現していく」という、コミュニケーションに必要な過程を学習者が体験・意識化できたこと、また、それを意識するだけではなく、実際にクラスにおいて各自がそれぞれ工夫しながらコミュニケーションを行おうとするようになったことを示していると考えられる。このように、日本語5B・6Bにおける「やりとり」と「ふりかえり」を軸とした活動は、学習者それぞれにコミュニケーションの意識化とその試みを促したと言えるのではないだろうか。そして、そのことが、学習者の「コミュニケーション能力」の向上につながっていくのではないかと思う。

## 6. 今後の課題

今後の課題としては、5B・6Bの基礎的な日本語力のレベル差への対応が挙げられるだろう。これまで、5B・6Bでは同じ活動を同じペースで進めてきた。が、6Bの学習者に比べ、「日本語による」表現・理解の能力が制限されている5Bの学習者にとって、6Bと同じスケジュールで活動を進めていくことによる負担は大きいと思われる。そのことに加え、2004年度秋学期は、5Bのほうが若干人数が多かったため、5Bの学習者の1人あたりの話し合い時間が不足してしまい、「話し合いによって考えが深まっていく」ということを実感するのが難しい状況となってしまった。そのため、クラスで話し合っていくことに意義が見出せず、他者のテーマについての話し合いに主体的に関われない学習者も見られた。それに対し、本稿で分析対象とした学習者GやSは、自分のテーマだけではなく、他者の



テーマについての話し合いにも主体的に関わっており、その結果、「やりとり」と「ふりかえり」がその活動過程に顕著に見られたのだと思われる。その違いはおそらく、4-5でとりあげたGやSの発言からわかるように、彼らが活動過程において、他者とのやりとりによって「自分の考え」を捉えていく・深めていくことに、“面白さ”や“楽しさ”，そしてその有効性を見出したことにあるのではないだろうか。また、4章の分析で見えてきたように、自分の伝えたいことが思ったようには理解されなかった、あるいは逆に、「やりとり」の「くりかえし」によって理解されるようになったという授業内での体験により、彼らの「伝えたい」「理解したい」という動機がより強いものになったからではないかと考えられる。

今後は、上述したような問題点を解決するため、特にレベル差に応じた「活動のしかた・構成」や「各活動への時間のかけ方」を考え工夫していきたい。そうすることが、学習者が他者との「やりとり」に意義を見出し、「伝えたい」「理解したい」という動機を持ちつつ、お互いに主体的に活動に関われる環境作りにつながるのではないだろうか。また、それにより、クラス内の「やりとり」と各自の「ふりかえり」がより活発に行われ、その結果として「コミュニケーション能力」の育成がより期待できるのではないかと考えている。

#### 参考文献

蒲谷宏 (2003) 「『待遇コミュニケーション教育』の構想」『講座日本語教育』第39分冊 早稲田大学日本語研究教育センター

#### 添付資料

「活動の流れと学習者の活動過程（各ステップの目的・学習者の変化・具体例）」  
日本語5B・6Bの理念と実際の授業の流れ、また、学習者の活動過程がどのように対応しているかを表すため、各ステップの目的とそこで見られた学習者の変化や考えの流れ、また、本稿で取り上げた学習者G・Sの具体例をまとめたものである。

【添付資料】活動の流れと学習者の活動過程（各ステップの目的・学習者の変化・具体例）

ステップ	目的	学習者の考えの流れ	学習者Gの変化と具体例	学習者Sの変化と具体例
テーマ設定	テーマを定める	自分の考えを持っていることを短い文章にする	「私の外国人友達についての考え」	11行にわたる文章で、「テス」という小説が好きな理由と自分の性格の関係を示唆
第1段階	「自分の考え」を確立する	●「自分の考え」に對する相手の反応を知り、相手に伝わっていないことを実感する ↓	●クラスメートに誤解されたことに気づく ●自分の考え方がクラスメートの考え方とは違うことに気づく	キーワード ・「宿命観」 ・「悲観的」  ・「運命は何によって決められるのか」 ・「なぜ悲しい運命観を持っているのか」
		●伝わっていない部分について説明を行ったり、「自分の考え」を見つめたりする ↓	「私の語でいつもベトナム人だと言ったら、少しとも区別、差別があったように、他の人に私に私外国人との差別があると思われてしまった。→本当に困っています。どういふふうで説明すればいいかもっと考えたいと思う（ベトナム人だという考え方が絶対に差別するたためではない）」(11/2報告シート)	・「性格によって運命が決まってしまふ」ということについて自分の体験談を語る (11/10報告シート) ・「私欲を満たすために運命に逆らおうとするとするのは悲しさの根源にあると思います」(11/4報告シート)
(第1段階まとめレポート)		●相手の反応をどう受け止めたかを、相手に分かりやすいように工夫して伝える	誤解されたという自覚・そのときの気持ち ⇒ その原因 ⇒ 自分分の考えを変えなければならない ●第1段階での経緯・話し合ったことをまとめ	●クラスメートから、質問されたり、詳しい説明を求められたりする ●クラスメートからの質問に対し、具体的に説明を行う
			誤解されたという自覚・そのときの気持ち ⇒ その原因 ⇒ 自分分の考えを変えなければならない ●第1段階でのやりとりを中心にまとめる	「私の人生に対する理解では、人間の運命は誰かに(例えば神様とか)決められることではなく、自分の性格に決められるということである。しかも、人間の性格は、基本的には変えにくく、したがって、性格に決められる運命はある程度決まっていると言えよう。人性の中の「暗い面」と「明るい面」等の弱点のため、運命に逆らうことをするのには悲劇の根源にあると思っている。」(2段落3行目～)

ステップ	目的	学習者の考えの流れ	学習者Gの変化と具体例	学習者Sの変化と具体例	
第1段階 (第1段階 まとめレ ポート)			<p>●「自分の考え」の背景となるものや、それに影響を与えた自分の体験を説明に加える 例)「私はベトナム人である、自分の国のために何か役に立ちたい」という考え方は、自分が育ってきた環境(発展途上国・共産主義下のベトナム人)に影響されているということを説明</p>	<p>「共産等の下で導くベトナムで生まれ、自国の教育を受けた私の出身は、まだいろいろなお題に頭を出す国の状態を見て、いつでも自分の力を貢献する意欲が促された。どこの国の人でも私と同じような考えがある、これが当然だと思っただ。」(2段階 4行目)</p>	<p>「以上の作品のストーリーーはだいたいお進みけれど、小説の主人公が宿命の運命の運載のため、悲惨な一生を送ったというところは共通のところである。」(1段階 9行目)</p>
第2段階	他者と意見交換を行う	●他の人との話し合っポイントを探したり、相手の考えに影射を受けたりの考えを「自分自身」に目を向け、それを自分自身で把握しようとする	<p>●Gからクラスメートに質問を投げかける</p>	<p>●「自分の考え」を伝えるために必要な「悲劇小説」の紹介を簡潔に行う ●自分が好きな「悲劇小説」の例をいくつか挙げて、その共通点をまとめ提示</p>	<p>・「どのような悲劇小説が好きなのか」(11/30報告シート) ・「自分が楽編的な人だと思っか、悲観的な人だと思っか」(11/30, 12/3報告シート) ・「読書や本に何を求めているのか」(12/8報告シート)</p>
第3段階	「自分の考え」を直視する	●「自分の考え」を見つめ直そうとする	<p>・「自分の観念や思想を変える必要があるかどうか」(11/18報告シート) ・「友情はどんな意味があるか」(12/3報告シート) ・「友情は必要か、大切か」(12/8報告シート)</p>	<p>●Sからクラスメートに質問を投げかける</p>	<p>・「どのような悲劇小説が好きなのか」(11/30報告シート) ・「自分が楽編的な人だと思っか、悲観的な人だと思っか」(11/30, 12/3報告シート) ・「読書や本に何を求めているのか」(12/8報告シート)</p>
第4段階	「自分の考え」を最終的に提示する	●相手に分かりやすいように工夫して伝える ↑発表/レジュメ	<p>・「自分の考え」に影響を与えたクラスメートやT・Aの意見を引用 ・独自に留学生対象にアンケートを行い、その結果を添付(口頭発表レジュメ)</p>	<p>●第2段階でクラスメートに問い掛けた質問を、着実に利用し、自分が強調したい部分に下線を引く</p>	<p>「I」どのよう悲劇小説を好きなのか」「II」いつから悲劇小説を好きなのか」「III」なぜ他の小説より、悲劇小説が好きなのか」「IV」読書や本に何を求めるのか」「V」悲劇小説から何を味わったか」「VI」悲劇小説と現実の世界の私」(口頭発表レジュメ)</p>

ステッブ	目的	学習者の考えの流れ	学習者Gの具体例	学習者Sの具体例	学習者Sの変化と具体例
(口頭発表会)		<ul style="list-style-type: none"> <li>●理解が得られた部分と、理解されない部分を知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●理解が得られたということを知る</li> </ul>	<p>クラスメートからのコメントシートには、「初めはGさんが何を言っていたのか分からなかったが、この発表で分かった」「より広い視点・個性を守ったことを尊敬する」といった感想・意見が見られた。</p>	<p>クラスメートからのコメントシートには、「Sさんの言いたいことが理解できた」「自分とは意見が違うが、Sさんの考え方は自分にとって新しく興味深い」といった感想・意見が見られた。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>●「自分の考え」を再度見つめ直し、説明し、自分の考えを整理した。さらに、さらさらめたりする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●口頭発表をもとに、章立てを自問自答形式に直し、「自分の考え」だけでなく、「自分の気持ち」についても丁寧に記述する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「自分の考え」を再度見つめ直し、説明し、自分の考えを整理した。さらに、さらさらめたりする</li> </ul>	<p>レポートIV章に見られる工夫・分量の増加(同じ内容を扱った、口頭発表レジュメV章と比較)より詳しく具体的な説明(小説や登場人物を自分と対比させながら引用し、論じるという文章スタイル)</p>
(レポート)		<ul style="list-style-type: none"> <li>●理解が得られた部分と、理解されない部分を知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●理解が得られたということを知る</li> </ul>	<p>クラスメートからのコメントシートには、「話し合いを通じて、Gさんの考え方・気持ちが変わってきた」といった感想・意見が見られた。</p>	<p>クラスメートからのコメントシートには、「Sさんの言いたいことがよく整理されていて、Sさん自身のこととわかるようになった」といった感想が見られた。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>●「自分の考え」が他の人にどのような影響を与えたかを知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「自分の考え」が他の人にどのような影響を与えたかを知る</li> </ul>	<p>クラスメートからのコメントシートには、「Gさんのレポートを読んで、自分も『外国人の友達』についてもう一度考えるようになった」といった感想が見られた。</p>	<p>クラスメートからのコメントシートには、「Sさんのレポートを読んで、いろいろなること(『人生』『運命』『生き方』等)について考えるようになった」といった感想が見られた。</p>

ステップ	学習者の考えの流れ	学習者Gの変化と具体例	学習者Sの変化と具体例
第5段階 ●全ての活動とその過程をまとめる ●レポート集を作成する			